

日本子ども家庭福祉学会通信

第39号

2019年3月発行

Japanese Society of Child and Family Welfare

No.39

第20回 日本子ども家庭福祉学会 全国大会のお知らせ

1. 開催日時, 場所

2019年6月1日(土)~6月2日(日)

立命館大学衣笠キャンパス

京都市北区等持院北町 56-1

2. 大会テーマ

大会テーマ:「育ちと巣立ち」—「貧困」の中で育つ
子どもの自立支援

会員みなさまには益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。2019年6月1日・2日に開催される「第20回日本子ども家庭福祉学会全国大会」についてお知らせいたします。

今回は、大会テーマを「育ちと巣立ち」—「貧困」の中で育つ子どもの自立支援」と題して、近年子ども家庭福祉領域の重要なキーワードの一つとなっている「子どもの貧困」を取り上げます。貧困がもたらす様々な生きづらさの中で大人になっていく子ども・若者の支援の現状と今後の課題を探ることを趣旨とした全国大会を開催いたします。

子どもの貧困が社会問題として認識されるようになり約10年、地域での様々な取り組みが根つきつつある中で、子どもたちの自立に向けて、高校卒業後までを見据えた支援が求められています。また、若者期を含めたアフターケアの重要な社会的養護については、2016年改正児童福祉法で、家庭における養育が困難または不適切と判断される場合には、まず里親委託を優先的に検討することが示されました。さらに、2017

年の「社会的養育ビジョン」においては、里親委託にかかわる具体的な数値目標が示され、里親家庭の量的・質的拡充が求められています。

困難な状況の中で育つ子どもの「育ち」と、社会への「巣立ち」に向けて、どのような価値や倫理に基づいての実践が行われるべきか、どのように量的な拡大を実現していくか、検討すべき課題は山積しております。

大会第1日目は、記念講演においては、日本子ども家庭福祉学会の第20回という節目にあたって、テーマには、「子ども家庭福祉学会の20年と子ども家庭福祉のこれから」を設定いたしました。学会の20年を振り返りつつ、今後の子ども家庭福祉の展望について、関西大学の山縣文治氏よりお話しいただきます。

続くシンポジウムでは、経済的な貧困、そして人と人とのつながりの貧困、様々な「貧困」の中で育つ子どもたちの「育ち」と社会への「巣立ち」をテーマに、子ども家庭福祉学の研究を深めることを目的として実施します。

施設での「育ち」を経験した子ども当事者からの発信として川瀬信一氏、里親として「育ち」と「巣立ち」を支援する立場から村田潔氏、社会的養護研究の立場から長瀬正子氏、思春期の若者の育ちと巣立ちを高校での教育の立場から支援する山田勝成氏、スクールソーシャルワーカーの立場から子どもの貧困について実践、研究をされている野尻紀恵氏にご登壇いただき、それぞれのお立場からの発信を通して、子どもの「育ち」と「巣立ち」を支える現場の現状と課題を明らかにしていきたいと考えます。

大会第2日目には、各分科会における自由研究発表と課題セッションを企画しております。この詳細については、大会ホームページで随時、ご案内いたします。

多くの学会員によるご発表と活発な論議が期待されます。多くの皆さまのご参加、ご発表を心よりお待ちしております。ご発表を心よりお待ちしております。

第20回日本子ども家庭福祉学会全国大会 大会長
竹内謙彰
実行委員会一同

3. プログラム

6月1日(土)

12:30~13:00 民間団体活動推進調査事業成果報告
13:00~13:30 総会
13:45~15:00 記念講演「子ども家庭福祉学会の
20年と子ども家庭福祉のこれから」

関西大学 山縣文治氏

関西大学の山縣文治先生に、子ども家庭福祉学会発足から今日までの20年にわたる学会のあゆみを振り返っていただくとともに、学会とともにあったこの20年間の子どもの家庭福祉の総括と今後の展望についてお話しいただく。

15:15~17:45 シンポジウム「育ちと巣立ち—
「貧困」の中で育つ子どもの自立支援—」

社会的養護の中で育った子どもが、一人の大人として社会に巣立っていくためには、18歳以降も生活の様々な局面で支援を必要とする現状がある。また、社会的養護サービスにつながるに至らなくとも、貧困、虐待等、様々な困難を抱えながら地域の中で育ち、大人になっていく子どもたちが存在する。経済的な貧困や人とのつながりの貧困など、様々な形の「貧困」の中で育つ子どもたちへの自立に向けた支援として、社会的養護の施設や里親、そして子どもの「第二の居場所」である学校では様々な実践が行われている。今回のシンポジウムでは、養育者、当事者、教育者、そしてスクールソーシャルワーカーは、どのような視点で、またどのように連携しながら子どもの「巣立ち」に向けて「育ち」を支えていくことが求められるかを検討する。

シンポジスト

川瀬信一氏

(当事者の立場から)

村田潔氏

(滋賀県里親会事務局長・里親の立場から)

山田勝成氏

(大阪府立西成高校校長・教育の立場から)

野尻紀恵氏

(日本福祉大学・学校ソーシャルワーク
研究の立場から)

長瀬正子氏

(佛教大学・社会的養護研究の立場から)

野田正人氏 (立命館大学) :

コーディネーター

18:00~19:30 懇親会 (末川記念会館カラム)

6月2日(日)

9:20~12:00 分科会「自由研究報告」
(40分×4報告×5会場)

13:00~15:40 分科会「自由研究報告」
(40分×4報告×5会場)

4. 参加費

【参加費】

	大会参加費		懇親会費 (カラム)
	事前受付 (5/8まで)	当日受付	
会員	4,000	5,000	5,000
非会員	5,000	6,000	5,000
公開プログラムのみ	2,000	3,000	5,000

学部学生は学生証提示で①大会参加は無料、②懇親会費は3,000円となります。

5. 学会参加申し込み方法

下記の口座に、該当する金額を払い込んでください。その際、払い込み用紙の備考欄に、①お名前、②会員・非会員・公開プログラムのみ のいずれかの参加形態、③懇親会の参加あり・なし、④ご所属、⑤連絡先(ご住所・お電話番号)について記入してください。事前受付期間は2019年5月8日までです。

払い込み先	ゆうちょ銀行
口座番号	14080-76160691
口座名称	第20回日本子ども家庭福祉学会 学術集会実行委員会

払い込み手数料は、ご負担願います。なお、参加費及び懇親会費は返金できませんのでご了承ください。

6. 自由研究報告申し込み方法

自由研究報告を行うためには、筆頭者だけではなく共同報告者全員も「会員」である必要があります。自由研究報告をご希望される方は、詳細案内ページ <https://kodomokatei2019060102.jimdofree.com> をご確認の上、4月1日(月)~4月15日(月)の間に、大会事務局 kodomokatei.2019@gmail.com へ所定の様式に沿った報告要旨の完成原稿をメールに添付してお申し込みください。その際、メールの表題には【2019年度報告要旨(筆頭者の氏名)】と表記してください。皆様のお申し込みをお待ちしております。

〈お問い合わせ〉

大会事務局

大会長 竹内謙彰 事務局長 野田正人

京都市北区等持院北町56-1 立命館大学産業社会学部 事務局 石田賀奈子

E-mail: kodomokatei.2019@gmail.com

特別企画シンポジウムのお知らせ

1999年5月に立ち上げられた本学会が、設立20周年を迎えます。これにあわせて、第20回大会では、大会校に尽力により、学会の回顧と展望を主題とする記念講演を行えるようご準備いただいているところです。

理事会では、第20回大会とは別に、特別企画シンポジウムを実施する方向で議論を開始しています(→理事会議事録参照)。施策、実践、そして研究の動向等を見守りながら、2019年秋を目途に開催できるようにスケジュールリングをしておりますが、テーマを含め、詳細は未定です。ぜひ多くの学会員の方に参加いただきたいと考えておりますので、ご意見があればどうぞお寄せください。

2019年度民間団体活動推進調査研究事業の公募結果

周知のとおり、特別企画として、「民間団体活動推進調査研究事業」が2018年度からスタートしており

ます。今年度は8月1日に公募の案内を発信し、2019年1月末までに5件の応募がありました。第2回理事会で厳正な審査を行った結果、以下の2件を採択することとしました(助成総額589,000円)。

- ①「放課後等デイサービスを利用する発達障害児に対する徒歩下校を支援する意義」(徳永聖子会員)
- ②「カンボジアの児童養護施設退所者の自立に関する考察—knkカンボジアとの協働調査から」(小坂井真希会員)

採択者には、2019年度に事業を実施いただき、2020年度開催の全国大会で報告をいただくことになっております。

なお、2020年度についても公募をいたしますので、ご関心がおありの会員は、学会ウェブサイトでの新着情報にご注意いただくほか、第20回大会にあわせて行われる総会及び当該事業成果の報告会にも是非ご出席ください。

2018年度日本子ども家庭福祉学会 第2回理事会 議事録

場 所：日本女子大学目白キャンパス

日 時：2019年2月10日(日) 13:00~15:00

出席者(敬称略)：林浩康, 木村容子, 増田まゆみ,
山本真実, 湯澤直美, 澁谷昌史

欠席者(敬称略)：相澤仁, 網野武博, 川松亮, 小林理,
倉石哲也, 山野則子

1. 審議事項

(1) 研究助成事業の審査(審査結果, 採択方針の確認, 採択)

・「2019年度民間団体活動推進調査研究事業」に対して応募のあった5件について、あらかじめ各理事より提出された審査結果に基づき、上位2件(「放課後等デイサービスを利用する発達障害児に対する徒歩下校を支援する意義」/「カンボジアの児童養護施設退所者の自立に関する考察—knkカンボジアとの協働調査から」)を採択し、研究費(上限30万円)の助成を行うことを了承した。

ただし、1件については、助成対象とすることについては適当であるが、研究計画と予算計画との間

に整合性がないように見受けられる部分があったため、その点に関する疑義が解消されることを助成の要件とした。

- ・採択方針及び審査方法の確認を行う中で、審査をより適正に行うための方法について意見交換を行った。具体的な審査項目の一部修正とそれに伴う公募要項の見直しについて事務局で検討し、次回理事会で審議できるように準備を進めることとした。

(2) 2019年度全国大会、第20回大会について

- ・大会校より提出された資料（開催日時、場所、大会テーマ、プログラム、実施体制案）に基づき、審議を行い、基本的には大会校の意向に即して開催されることを了承した（ただし、大会テーマとシンポジウムの関係性が明瞭になるよう一部文言修正について参考意見として伝えることとした）。
- ・大会1日目の開会間（総会後）に「2018年度民間団体活動推進調査研究事業」の成果を発表する時間を設定してもらえよう依頼することとした。発表時間は、前回理事会においては各30分としていたが、全体的なスケジュールを勘案し、1件につき各15分・全体で30分の発表時間とし、プログラムが確定し次第、研究代表者へ伝達することとした。
- ・2019年度が学会設立20周年にあたることから、学会として特別に企画を用意するべきかを審議した。2019年11月には児童の権利に関する条約の採択20周年にあたること、施策が大きく変わる中で学会の果たす役割が再注目される状況にあることも勘案し、特別企画を実施する方向で検討を進めることとした。

具体的には、まず学会長経験者の意見を聴取するなどして、特別企画のテーマ等を明確にし、第20回大会のときに特別企画の実施（10月中の実施を第一候補とする）を告知できるよう理事間で意見交換を進める。

(3) 学会誌について

- ・諸経費の上昇により、バックナンバーの販売金額について、現行の1,000円から、1,200円へと改訂する案について審議され、承認された。
- ・学会誌の表紙について、学会設立20年を機に見直すことについて審議され、承認された。具体的なデザイン案及びその選定方法については、別途事務局から理事会に提案することとした。

(4) 第21回大会の開催校についての検討

東洋大学から内諾が得られていること（開催日程及びキャンパスは未定）について説明がなされ、これについて了承した。

(5) 入会審査について

申請のあった4名すべてについて入会を承認した。

(6) 次回理事会（2019年度第1回）の開催について

第20回大会の初日にあたる2019年6月1日（土）午前に、大会校で開催できるよう調整を行うこととした。

(7) その他

会費納入の促進のための督促の実施について、引き続き検討することとした（2017年度の会費未納は30件）。

2. 報告事項

(1) 学会誌投稿前の共同研究者の会員登録について

学会誌投稿を目的に入会を希望する例が散見されるようになっている。会員拡大に資するものだが、学会誌の質の維持などにも配慮し、今後の動向を見守りたいとした。

(2) その他

とくになし。

入退会者

2018年11月1日～2019年2月28日までの新入会員

会員名	所属機関名
尾関 唯未	岐阜聖徳学園大学
楠 聖伸	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究所
葛谷 潔昭	豊橋創造大学短期大学部
濱島 淑恵	大阪歯科大学
高原 ひろみ	認定子ども園 マリア高安保育園
藤原 牧子	大阪成蹊短期大学
岡本 妙子	豊岡短期大学
前野 隆司	慶應義塾大学
保井 俊之	慶應義塾大学
加納 史章	兵庫教育大学

2018年11月1日～2019年2月28日までの退会者

- 中館 慈子
- 三宅 奈美江

会費納入のお願い

本学会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、3月31日に終わります。総会時には、高い会費納入率の達成についてご報告できることを願っておりますので、会費（正会員6,000円、法人会員10,000円、賛助会員10,000円）の納入がお済みでない場合、以下までお振込をお願いいたします。

【郵便局 00160-5-551365 「日本子ども家庭福祉学会」】
 ※他金融機関からのお振込の場合は、「ゆうちょ銀行 ○一九店(019) 当座 0551365」にお振込ください。

なお、会費の納入状況は「マイページ」でご確認いただけます。

<https://www.bunken.org/jsfw/mypage/>

マイページのご利用には、会員番号とパスワードが必要です。パスワードのお問い合わせは学会事務局にメールでお願いいたします。

新入会員のご紹介のお願い

本学会では、入会審査回数を増やす等の対応を行うことで、会員数の拡大に努めております。会員数は増加傾向にはありますが、「国連子どもの権利条約を基調に子どもと親のウェルビーイング（個の尊重・自己実現）を促進するための子ども家庭福祉制度のあり方を研究、議論する場、子どもや親の意見を社会的に代弁する場」（設立趣意書）として益々の成長発展を遂げられるよう、研究者はもちろん、実践にかかわる方たちにも関心をお持ちいただくことが重要です。もしも周りに子ども家庭福祉の推進にご関心のある方をご存知でしたら、ぜひ入会をお勧めください。

〈入会手続きおよび、入会申込書記入時の注意事項〉
 ・学会ウェブサイトの「入会申し込みフォーム」に必要事項を記入して送信してください。

- ・入会に当たっては当学会会員（2名）の推薦が必要です。
- ・学会員の推薦人が見つからない場合は、申し込みフォーム送信する前に、事務局までご相談ください。
- ・入会の承認は年に4回（4月、6月、10月、2月）に行われます。
- ・年会費の振込みは入会承認後となります。入会承認後にお知らせと併せて振込用紙を送付しますので、受け取り次第お早めにお振込み下さい。

【編集後記】

- ・子ども虐待の重症事例が大々的に報道されています。社会的養護の自立支援のあり方についても、あらためて問われています。
- ・小学校就学前教育・保育の無償化や放課後児童クラブの量的確保など、多くの子どもと子育て家庭にかかわるサービスについても、大々的な変化の時期を迎えています。
- ・こうした社会的状況にあって、第20回大会は、本学会のあり方を見つめなおす機会にもなりそうです。ひとりでも多くの会員及び関係者にご参加いただけることを願っています。
- ・第20回大会では、昨年度からスタートした特別企画・民間団体活動推進調査研究事業の成果報告も行われます。
- ・2019年秋には、特別企画シンポジウムの実施を検討しています。本通信のあり方とあわせて、ご意見等をお待ち申し上げます。
- ・ご所属先の異動等がございましたら、登録情報の更新を行ってください。（S）

日本子ども家庭福祉学会通信 第39号

発行日 2019年3月31日
 発行人 林 浩康
 編集人 澁谷 昌史
 発行 日本子ども家庭福祉学会事務局
 〒162-0801
 東京都新宿区山吹町 358-5
 アカデミーセンター（株）国際文献社
 Tel: 03-6824-9371 Fax: 03-5227-8631
 e-mail jsfw-post@bunken.co.jp